

アグリソリューションセンター設立

ヤンマーアグリジャパン・北海道C

フラッグシップ拠点 一層役立つサービス提供

ヤンマーアグリジャパン(株)(原田正孝社長)の北海道カンパニー(杉山宏一カンパニー社長・北海道江別市工業町10の6)は、同カンパニー本社1階ショールームの大幅な改修などを進めていたが、このほど完成。フラッグシップ拠点となる「ヤンマーアグリソリューションセンター」としてフルリニューアルしたことから、7、8、9の3日間、オープン記念の「プレミアム展示会」を開催するとともに、7日にはナレッジセンターにおいて、ヤンマー(株)の小林直樹常務取締役常務執行役員農機事業本部長らが出席し、「オープニングセレモニー」を開催した。同社ではこれを機に「新しい『農』のクリエイト」を目指し、これまで以上に質の高いサービスの提供に取り組む。

午前11時から開催された「オープニングセレモニー」の冒頭、主催者を代表して挨拶に立った小林農機事業本部長は、最初に出席者に謝意を示し、「アグリソリューションセンター」は悲願であり、次の世代の農業を強くするための基地であり、皆が集まり交流する場であり、サービスの拠点であるなど説明。その上で、「日本の農業に

おいては、TPPをはじめ厳しい話が多いが、一方で、農業に関係のなかった多様な産業のトップメーカーが、農業に対するいろいろな商品やサービスを提案しているのは、農業が成長産業であり、収益産業であることを認識しているためである。日本の農業に関して、厳しい報道が多いと話したが、これは、新しい時代に向けての成長過程である。



挨拶する小林農機事業本部長



説明を行う杉山北海道カンパニー社長



テープカットを行う杉山北海道カンパニー社長を中央に、左が奥山取締役、右が小林農機事業本部長

次に、来賓を代表して、国際競争力を持った貢献できることが我々のめめのプロセスであるから思いである」などと力強く、日本の農業、北海道の農業が国際競争力を持ち、発展するために、北海道農政部技術支援担



ナレッジセンターのオープニングセレモニーには多数出席した

それによると、ヤンマーアグリジャパン北海道が「アグリソリューションセンター」などの説明を行った。

農業機械業界では初となる、体験型試乗施設

当局長の木村秀雄氏が挨拶したのに続いて、江別市の三好昇市長の乾杯の音頭によりセレモニーを終了し、懇親に移った。午前12時過ぎからは、ナレッジセンターの2階において、ヤンマーホールディングス(株)の奥山清行取締役、ヤンマー(株)の小林農機事業本部長、ヤンマーアグリジャパン(株)の原田社長、杉山北海道カンパニー社長らが出席して記者会見を行い、杉山北海道カンパニー社長が「アグリソリューションセンター」などの説明を行った。

カンパニーは1997年移設以来、5万人以上の農業者を中心とする来店があり、今回のフルリニューアルにより、「ヤンマー」の魅力を残すことなく体感してもらうために様々な工夫を凝らしている。

施設の中心となる「ナレッジセンター」は、各種の最先端の営農情報や農家の「よろず相談窓口」といった機能だけでなく、次世代農業の体験と、最新の農業ソリューション情報を発信する文字通りの「フルパッケージ」のフラッグシップ。

「デモンストレーションフィールド」を同カンパニー本社屋の隣接地に新たに設け、最新の農業機械や、RTK(干渉測位方式による精密測位システム)基地局を設置し、「GPSガイダンス」や「精密オートステア」の試乗を可能としている。

フルリニューアルした施設は、ヤンマーホールディングス(株)取締役である、世界的に著名な工業デザイナーの奥山清行氏がデザイナーの監修を手がけており、2012年に創業100周年を迎えたヤンマーの「次の100年を目指す新たな姿」をデザイン面でも表現している。

また、農家が特に用事なくとも、ちょっとした空き時間に気軽に来場し、くつろげるように、おもてなしを重視した施設となっており、新しいヤンマーの魅力や技術力を直接体感することも、これからの農業の面白さを知ることができるようにしている。

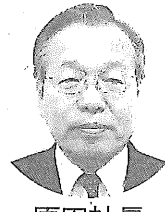
「ヤンマーアグリソリユーションセンター(北海道カンパニー本社)」は、施設面積が約6万平方メートル、年間来場者目標1

万人で、主な特徴が、①体験型試乗施設には、建築物としては日本で初めてとなる、実物の40フィートロングコンテナを縦に組み合わせた、独創的デザインの常設の建物を設置②新規就農予定者などのための農業機械を中心としたプログラムや、JA婦人部などを対象とした農業機械の安全講習を用意③奥山氏のデザインによる最新鋭農機を常設展示④「FLYING Y」ロゴ入りグッズや、ジョンディアグッズなど限定商品やオリジナル商品を多数揃えたコーナーを常設など。

午後1時からは、ナレックスセンターの入口近くにおいて、奥山取締役、小林農機事業本部長、杉山北海道カンパニー社長がテープカットを行い、多くの農家が来場した。午後2時からは、新型トラクタと、アグリカルチュラルウェアを着たダンスとモデルとの融合による、ステーションイベントを多くの農家が楽しみ、引き続き、奥山氏による「デザインコンセプト」をテーマにしたトークショーに熱心に耳を傾けていた。

国内最大級の拠点

新しい「農」をクリエイイト



原田社長

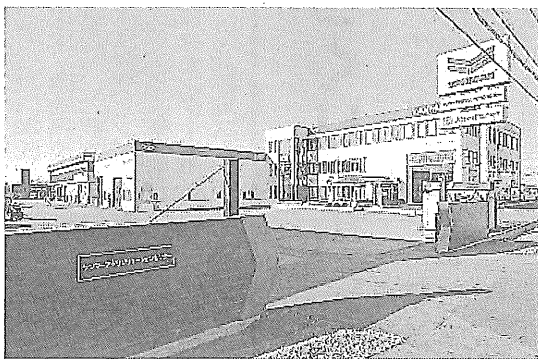
ヤンマーアグリジャパン(原田正孝社長)は、北海道カンパニー本社をフルリニューアルし、「ヤンマーアグリソリューションセンター」としてグランドオープン。11月7日～9日までプレミアム展示会を開催した。各種イベントを通して次世代農業の体験や最新農業情報の発信を可能にした施設を紹介や新デザイントラクタ&コンバインが発表された。

2012年に創業100周年を迎えたヤンマーグループは、次の100年を見据えて次世代の農業を象徴するコンセプト

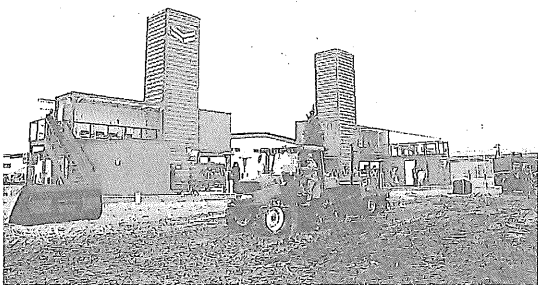
トラクタの発表や農作業ウェアの開発・販売をはじめとする「プレミアムブランドプロジェクト」を立ち上げた。この一貫



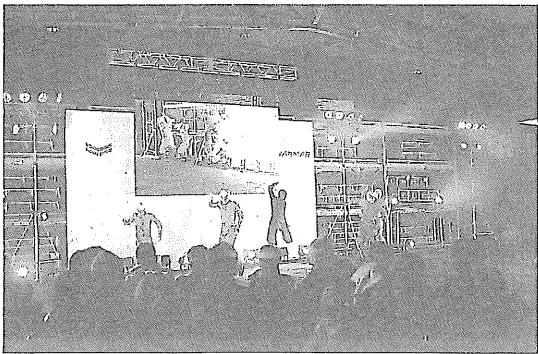
首脳陣によるテープカット



リニューアルした施設外観



デモンストレーションフィールドでは試乗体験を行った



ダンサー&モデルによるステージイベントも実施

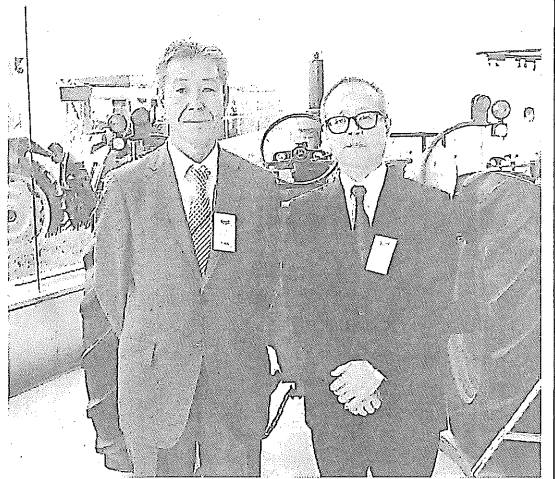
テープカットを前に行われた記者会見にはヤンマーから小林直樹常務取締役常務執行役員農機事業本部長、三原真紀子経営企画ユニットブラン

ヤンマーの小林直樹常務取締役常務執行役員農機事業本部長が挨拶に立った後、木村秀雄北海道農政部長、生産振興局技術支援担当局長が来賓代表挨拶。「我が国最大の食料生産地である北海道で、大規模な機械化農業を実現する上で大きな役割を果たしてきたことに心より御礼申し上げたい。このような素晴らしい施設を基点とし、次代のニーズに的確に対応した、高性能で農家が求めやすい価格の製品の提供や、研修制度を通じた担い手育成などヤンマーならではの取組みに期待している」などと述べた。三好昇江別市長も「今後セン

ターが、ますます発展し、北海道の農業の振興の拠点となることを大いに期待している」と述べ、乾杯の音頭をとった。

ヤンマーアグリジャパン北海道カンパニーは1997年の移設オープン以来、5万人以上が来場している。このたびのフルリニューアルでは、ヤンマーの魅力を余すことなく体感できる施設になるよう、さまざまな工夫をこらしている。施設中心となる「ナレッジセンター」は、各種最先端の営業情報や困りごとの「よろず相談窓口」といった機能だけでなく、ヤンマーが提唱する次世代農業の体験と、最新の農

業ソリューション情報を発信する場とした。また、農業機械業界初となる体験型試乗施設「デモンストレーションフィールド」を本社屋の隣接地に新設。最新の農業機械やRTK基地局を設置し、「GPSガイダンス」や「精密オートステア」の試乗を可能としている。これらの施設はヤンマーホールディングス取締役である、世界的に著名な工業デザイナー・奥山清行氏がデザイン・監修を手がけており、2012年に創業100周年を迎えたヤンマーの「次の100年を目指す新たな姿」をデザイン面でも表現した施設となっている。



小林本部長(右)と杉山カンパニー社長(左)

ドマネジメント部部长。

ヤンマーホールディングスから奥山清行取締役が。ヤンマーアグリジャパンからは原田正孝代表取締役社長、杉山宏一常務執行役員北海道カンパニー社長が出席。杉山北海道カンパニー社長による施設概要や今後の展開などの説明がなされた。施設の概要や特長は次の通り。

《施設概要》▽施設名称「ヤンマーアグリソリューションセンター(北海道カンパニー本社)▽所在地「北海道江別市工業地10-6▽電話「011-381-2300▽敷地面積「約60000㎡▽年間来場者目標「1万

人。

《特徴》①奥山清行ヤンマーホールディングス取締役が施設全体のデザインを監督。建築物として日本初となるコンテナを使用した常設建築。40フィートロングのコンテナを縦に組み合わせた独自のデザインのデモンストラーションフィールドに展望ラウンジを設置。

最新の農業機械やRTK基地局を設置し、GPS「オートガイダンス」や「精密オートステア」の試乗が可能②新規就農予定者、農業従事者のための農業機械を中心とした研修プログラムやJA婦人部などを対象とした農機の安全講習を用意

農機の安全講習を用意

③奥山清行デザインによる最新鋭農機を常設展示。機能性と快適性だけでなく人間工学にも優れたヤンマー農業機械を実際に体感できるショールームに④「FLYING Y」ロゴ入りグッズや、ジョンディアグッズなどの限定商品やオリジナル商品を多数揃えたコーナーを常設⑤ナレッジセンター内に100名程度の収容が可能な、新しい「農」をクリエイティブするためのイベントや講演会場を設け、団体研修も可能、など。

農家の皆様が、お気軽にご来場いただき、ついでにただけよう、おもてなしを重視しつつ、新しいヤンマーの魅力や技術力を直接体感いただける施設となっている、と杉山北海道カンパニー社長。「このたびの大規模リニューアルを機に、北海道の次世代農業の提案と北海道農業発展への貢献になお一層取り組んでいく」と述べた。また、奥山清行ヤンマーホールディングス取締役は「今回ショールームにカフェコーナーを設けてい

る。今までの施設が機械の故障や不具合が発生した時に来ていただいた、いわば病院のような場だったのに対して、これからは何も用事がなくても行きたくなる、ここに来れば家族で楽しみながら農業の役に立つ知識が得られ、情報交換ができる場となる、そんなカフェや、農のテーマパークのような存在にしていきたい」と述べた。

プレミアム展示会では、こうしたコンセプトを堪能できるイベントを用意。特に注目を集めたのが奥山氏デザインの新型トラクタとコンバインで、ヤンマーアグリカルチュラルウェアをまとったタンサーやモデルとの融合によるショー形式の発表が行われた。デモンドでは最新トラクタや新商品マニトウ社のテレハンドラー&4WDフォークリフトの試乗体験、また、8日には野口伸北海道大学大学院農学研究科教授の「ICTを活用した夢の最先端農業」を演

題にしたトークショーが実施されたほか、屋外では100台以上の最新農業機械が展示された。この他、郷土のための食文化推進シエフ軍団「シェフズクラブ北海道」によるフードコートコーナーなども設置され、3日間、4300名が来場。最高のスタートを切った。

【小林直樹ヤンマー農機事業本部長挨拶要旨】次世代の農業を作っていく、強くしていくための基地として、皆が集まり、サービスの拠点ができ、

きないか。こうした想いが集まり結実したのがこの施設に込められている。TPP問題や農政の方針大転換など、農業を取り巻く環境は厳しい話が多いが、新しい時代に向けての成長過程、大きく日本の農業が強くなる国際競争力をもつていくためのプロセスだと認識している。そういう意味で、この日本農業・北海道農業が国際競争力をつけていく一助にこのセンターが貢献できれば、と考えている。

と考

と考

と考

ヤンマーアグリ ジャパン フラッグシップ拠点を北海道に新設

アグリソリューションセンター

情報発信・交流、教育の場に

ヤンマーアグリジャパン(株)は、大阪府北区鶴野町1-9梅田ゲートタワー・原田正孝社長は、北海道カンパニー本社(江別市・杉山宏一カンパニー社長)をフルリニューアルしアグリソリューションセンターとしてオープンした。同社が取り組むプレミアムプロジェクトの構築に向けて「新しい農業」をクリエイトし農業の価値を高めるソリューション提供を目的にアジア農業の先進地である同地に開設されたもので、ヤンマー国内最大級のフラッグシップ拠点となる。オープン記念展示会も7-9日の3日間開催され、道央管内を中心に4300人が参集した。「来場者も通常展示会よりかなり多く、目標も達成」するなど幸先の良いスタートを切った。



カンパニー本社はヤンマー(以下ヤンマーHD)取締役「デモンストレーションや精密オートステアの試乗も可能とした。そして情報発信やよろこびのノウハウ提供、次世代農業体験、最新ソリューションを提案するコミュニケーションスペースを、40フィートコンテナを縦に組み合わせ、独自のデザインとした。最新農機のみならず、RTK基地局を設置したことでGPSガイダンス



新装した本社・ナレッジセンター

な場所から、誰もが気軽に来れるカフェのような所にしたい(奥山氏)と話す。年間来場者1万人とし、実現すべく様々な試みを行う計画だ。【オープニングセレモニーでは】冒頭、ヤンマー(株)の小林直樹常務が「次世代農業を作り強くなるための基地。また皆が集まる場所をつくる。サービスを支援する拠点を作りたい」と思いがあり、センター開設は悲願でありそれが結実した。中核たるナレッジセンターは、農業経営者が情報発信と意見交換を行う場のみならず教育する場。食の講習会イベントを行い健康を作る食と農業をテーマに取り組みたいと挨拶した。続いて北海道農政部の木村秀雄技術支援担当局長が来賓祝辞を述べた後、三好昇江別市長の音頭で乾杯を行った。

重視したKen Okuyama designを含む最新農機40-50点を展示する予定の講演会場兼ショールームや「FLYING Y」ロゴ入りグッズやジョンディアを多数展示したコーナーと壁一面にカタログ展示されたスペースの他、カフェスペースも用意された。加えて新規就農予定者や農業従事者向け研修プログラムやJA婦人部等を対象とした安全講習も年5-6回開催を予定するなど、「これまでのメンテナンスタなど医者によ

最後に杉山カンパニー社長が「センターを起点に、農業生産者にサービ

【記者会見では】 奥山ヤンマーHD取締役や小林ヤンマー常務をはじめ原田社長や杉山北海道カンパニー社長、吉藤秀正アグリソリューションセンター長、三原真紀子ヤンマーブランドマネジメント部長が出席。質疑応答では、「FLYING Yは今後、世界中に展開していく。熊本もあるが実質的第一弾はアジアの先進地である同

地とした。農業がかっこよくて楽で儲かることへの実現に貢献したい(奥山氏)や「数年かけて熊本タイプのソリユージョセンターを展開する。また中部・近畿管内で兼業農家・ホビー層向けの店舗展開のモデルケースを来年以降、展開したい。研修等、人材育成は全国に展開する(小林氏・原田氏)」と答えた。

【展示会では】

屋外ではヤンマーやシ

ョンディアブランドのトラクタ30点以上を中心、田植機やコンバイン、管理機、各種野菜収穫機、作業機をはじめ、作業機や小物などの100点以上に加えて部品、資機材などを展示した。

ナレッジセンターではトークショーとして北海道大学大学院農学研究科の野口伸教授が「ICTを活用した夢の最先端農業」レストランモリエールの中道博オーナーシエ

フが「北海道農産物による地域活性化」(株)モスフードサービスの布施義男氏が「モスバーガーと契約農家の取組」、デザイナーフーズ(株)の市野真理子氏が「栄養学から考える儲かる農業」を行った。ア

グリカルチュラウェアやグッズ等も販売された。デモンストレーションフィールドでは、仏マニトウ社のテレハンドラー&4WDフォークリフトの試乗、マニトウの実演

チームによるパフォーマンス、ラジコンヘリ世界チャンピオンによる無人アクロバット飛行やクリスマスツリー点灯&花火大会も行われた。

一方、イベントステージでは奥山清行氏による「デザインコンセプト」の講演やダンス・ファッションステージも行った。そしてシエフズクラブ北海道のフードコートで新鮮な道産食材を活用した料理も提供された。